

- コロナ禍があげ、地域に活気が戻り、町外との往来や交流も活発化。また、今年には美郷町が誕生し20年目の節目の年
- この3年間は、「守り」重視の行政運営（町民の健康・安全対策や経済支援に軸足を置き、財政収支均衡に努める）。一方、人口減少を背景に疲弊する町の活性化に向けた取組は、様々な制約がある中、まずは将来の種を蒔くこと、布石を打つことに集中
- その結果、財政面は手堅く健全な運営（R1～R4 決算で基金残高合計4.3億円以上積み増し、R2 決算以降財調基金取崩し無し等）
- 一方、町の活性化の面では、これまで蒔いてきた種からいくつも芽が出始め、大きく花開く期待が膨らんでいる（美郷バレー、バリの町づくり、カヌーの町づくりなど）
- 町の様々な課題の根本原因となっている人口減少についても、明るい兆しが見え始めている。R5.10.1現在の「島根県の推計人口」で「社会増減」が+5人（+0.12%）と11年ぶりにプラスに。社会増は19市町村中美郷町を含む3町だけ
- 町を取り巻く環境は整い、今こそ「攻め」に打って出る絶好のタイミング。町民の暮らしに密着し、欠かせない分野の事業予算は確保しながらも、重要課題の解決や町の将来のために、「守り」から「攻め」へ転じるべき年として、積極的に予算編成
- 「細心」すなわち「手堅さ」だけでは、人口減少対策のような答えの見えない課題は解決できない。「大胆」すなわち「アニマル・スピリッツ」を発揮し、町の強みを活かした取組を一気に前に進める
- 2つのビジョン「活気あふれる明るい町」「町外と活発な交流のある町」を目指し、「細心大胆」に取組む

1 町民の暮らし（健康長寿、安全・安心、不便の少ない暮らし）

- (1) **健康長寿「長寿県長寿町」** 新型コロナ対応（情報提供、高齢者等ケア費用助成等）、健診受診率向上、子育て世代・保健指導等の対策強化、産前産後サポート、地域の交流・生活支援体制づくり、介護予防・認知症予防教室の充実
- (2) **安全・安心な町づくり** 国、県、関係機関等と連携し、対策を加速・推進
 - ① **治水対策** 港地区防災集団移転事業（年内移転完了に向け着実推進）、潮上地区の堤防整備着手、他地域の対策の進展で密に連携
 - ② **災害対応力の強化** 新技術の活用（デジタルバードマップ、災害情報リアルタイム・一元的収集、マイナンバーカード活用避難所効率化等）、内水対策（排水ポンプ・県ポンプ車等の機動的運用、都賀本郷地域を対象に国と連携し要因整理・対策検討）、地域防災力向上（地区防災計画策定の推進、古河電工と連携（住民WS、計画策定支援等）、デジタルバードマップ等の情報活用、防災士の研修・連携等）
- (3) **DXの推進** できるだけデジタルを意識せず、抵抗感を持つことなく、ICTとアナログを融合したサービスを提供
 - ① **デジアナ構想** 「マイナンバーカード」を持ち歩くことで暮らしが便利になる町（国のデジタル田園都市国家構想推進交付金）4事業「健康増進」「子どもの見守り」「バス券のマイナンバーカード活用」「避難所受付の簡素化等」を開始
 - ② **行政手続の利便性向上（オンライン化）** 町民に身近な手続を中心にオンライン申請手続の種類拡大
 - ③ **情報発信** ターゲット、ニーズを踏まえた戦略的情報発信 町公式LINEお友だち登録は町人口の約2倍8,363人、人口比で全国自治体4位に。「note」で情報発信を開始、自治会からのお知らせのLINE通知を導入予定
 - ④ **交通対策・自動運転** 地域公共交通計画に基づき、生活交通の維持・構築（利用者の利便性を考慮、交通事業者と連携）。幹線道路への移動、区域内移動等の課題解決に向け、小型バス自動運転の実証実験を計画（実現性等の検証、検討）
 - ⑤ **脱炭素のまちづくり** 全国トップクラスの充実した補助制度の利用促進。脱炭素の推進者として、新しい時代に応じた環境に優しい快適な暮らしを町民に提供（環境省「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金重点対策加速化事業」採択）。特に、EV車は全国トップクラスの普及率（R5.12末32台、人口1万人あたり普及数約77台（全国平均約18台、都道府県トップ約38台）で、災害時協力協定は全国から注目）
- (4) **地域活動等の支援** 町民が協力しあう地域の主体的な取組を支援。都賀長藤地区公民館（4地域の連携拠点）の整備着手

2 人口減少対策（移住・定住人口対策、滞在人口・活動人口の拡大）

【移住・定住人口対策】 若者流入を最重要課題として対策を講じることに加え、子どもを安心して生み育てることができる環境づくり

(1) 子どもの成長支援 ～子育て支援のその先へ～ 【注力施策】

「美郷町子ども未来応援金」 意欲のある子ども達が経済的な理由で進学を諦めることのないように、直接的に成長を支援

「学校給食の質向上」 給食の質を高め、子どもの健康や身体の成長を支援。県内で最も給食の質にこだわる自治体に（前年度比+96%の大幅増額。1食あたり給食単価は県内トップ見込。県内トップの地元食材使用比率は高水準を維持し、新メニュー追加）

「小中学生資格取得支援事業」 英語検定、インドネシア語検定、数学・算数検定やジャズピアノコンクールなど、将来役立つ能力開発を応援することで、子どもたちの興味や可能性を伸ばす

「バリ島マス村訪問・交流事業（中学3年生）」 美郷町だからこそできるバリ島マス村との交流を通して、異文化を知り、国際感覚を養い、人間的な成長や視野を広げるきっかけ、グローバルな時代を生き抜く原動力を育む

- (2) **子育て支援～充実したメニューを取り揃え注力～** 「保育料・保育所給食費の無料化」「小中学校の無料送迎スクールバス」「放課後児童クラブの利用無料化」「出生時～中学校卒業までの子ども医療費無料化」「高校生までのインフルエンザ予防接種無料化」「不妊治療費の助成」「子の誕生の際の定住ポイント付与」等の経済的支援に加え、「産前産後サポート」「スマホを活用したオンライン相談」「保育所や学校と連携した発達相談」等

- (3) **定住ポイント** 転入、就職、結婚、出産等の様々なライフステージの節目でポイント付与し、暮らしを支援。町内で不足するエッセンスワーカーの人手不足の解消のため有資格者ポイント付与（4職種・100万ポイント）

- (4) **ファミリー向け移住住宅「みさとと。サテライトハウス」** 「美郷町だからこそ可能なサテライトな“暮らし”が実現できる」公営住宅としては例をみないこだわりの住宅（太陽光パネル、EV車電源、薪ストーブ、インターネット、家庭菜園等を標準装備）。浜原地域に4月から5世帯入居予定で、新たに浜原と都賀西地域に8棟建設を計画

- (5) **新たな人の流れづくり** 「移住・定住情報の発信力強化（HP移住・定住関連コーナーのリニューアル）」、「大人の山留学（アウトなお試し移住を町施策4分野で実施）」、「サテライトオフィス（「みさとと。本社」）に続く、新たな整備を検討」等

【滞在人口・活動人口の拡大】 美郷町の「強み」に興味・関心を持ち集まってくる人や企業をターゲットとして取組み

(1) バリの町づくり 【注力施策】

- ① **バリの町条例** 理念・目的を明文化、体系的、計画的な取組、「バリの町」を強くアピール。「バリの町」を宣言、9月10日を「バリの日」に
- ② **中学生のマス村訪問事業** 中学3年生を対象に希望者をマス村に訪問させる交流事業を開始
- ③ **ジャパン・バリガムラン・フェスティバル** 全国のガムラン関係者が集い、演奏し、舞踊を披露するイベント開催。定期開催化で、全国のバリガムランの聖地化を目指す。実行委員会を立ち上げ、協力関係を築いてきたバリ関係者、町民、町内団体も参画して運営

(2) **美郷バレー構想** 産官学民の力を結集し「ピンチをチャンスに変える」他には真似できない取組が次々と実現しつつあり、美郷町の勝ち残りに向けた最重要戦略として取組を加速。滞在人口や活動人口の拡大につなげ、新たな人の流れを創り、活性化に結び付ける

(麻布大学 FWC) 「教職員・学生の滞在が前年度比3倍以上と飛躍的増加・町内購買率も伸び経済効果拡大、地域や町民との交流活性化、卒業後に協力隊として移住等」 「調査実習プログラム」の充実、お対策の取組み等で教育研習フィールドの質と魅力高め、受入拡大(新たな学科の研修受入) 「高大連携の強化(島根県第3の大学として県と連携強化。県内公立高校の全校長先生が FWC 視察(県関係部署幹部参加)・周辺高校での授業がキョム定着、県議会総務委員会の大学本学視察、新設学科「獣医保健看護学科」PR等)」

(美郷バレー連携企業等) 町をフィールドに知見を存分に発揮した連携が進み、益々活性化。鳥獣害対策にとどまらない町の課題解決や町の魅力の向上。滞在者の増加による町内消費増加に加え、町外での販路の確立、拡大等の経済効果も

「ドローンの活用 古河電工(株)、郡森林組合、タイガー(株)等と連携し、林業分野(苗木運搬の大型ドローン実用化)、鳥獣害分野(お対策での検討)、災害分野(物資輸送の実証)等に加え、農業分野など他分野へ波及も」「神奈川県大磯町 しゃくショップ・賑わい創出施設の「大磯ネット」と取引活性化、町内業者の生産意欲の向上」「兵庫県丹波篠山市 イベントの豚熱感染対策や対策など双方の力を活かした取組検討」「(株)テザック 新たな鳥獣害対策用部材(お、お等の防護柵のワイヤメッシュ接続部材)の開発、1月に特許庁に意匠登録出願」「美郷バレーきゃらバン」を通じた周知、普及で鳥獣害対策の課題解決、交流拡大」

(新たな取組み、山くじらフォーラム)

「お対策・林業振興」 2月7日:町、邑智郡森林組合、タイガー(株)で包括連携協定を締結。環境エリツットへの貢献と未利用資源をビジネスチャンスに(山くじらに続くブランド化)

「山くじらフォーラムの開催」 10月開催予定。お対策も加わった取組の進展を全国に発信、滞在人口・活動人口を一層拡大

(2) **カヌーの町づくり** 2025年インターハイと2030年島根かみあり国民スポーツ大会の会場に、邑智中・島根中央高のカヌー部部室を兼ねる大会本部施設が秋口に完成予定。11月に、インターハイ大会を計画(西日本)。関係機関、地域と連携して準備を進め、全国から多様な競技者が集まる「カヌーの町」づくりに向けて取組む

(3) **観光振興** 「雲海:田之原『両国おろし』」は町の新名所で多数の訪問、雲海予報はR3.3開設以来、閲覧数45,000回越え。展望台の環境整備、魅力のPR強化」「神楽:昨年のおとの創作共演演目「八岐大蛇」」は大きな反響。近隣へ呼びかけ美郷町神楽共演大会の開催、魅力発信強化」「美肌県美肌町:商標登録したキャッフルズ」を活かし、温泉、山くじら肉やどぼろくなど美肌コンプレックスの切り口でPR強化」「みさとと。ブランドینگ」:お-競技場等や「バリの町」等の美郷町ならではの魅力を伝える観光・案内看板の整備」「広島方面へのPR強化」:広島広域都市圏構想参画や広島市己斐地区との交流、「わがまち魅力発信隊(広島マツダスタジアム広島カープ戦)」等

(4) **ふるさと納税等** 「旅先納税」サービス開始。事業者の参加促進や企業版ふるさと納税先の魅力向上、魅力ある返礼品の開発、PR等

3 町の活気づくり(町内産業の活性化、賑わい創出)

(1) **美郷町商業活性化・賑わい創出事業** 3つのテーマに応じたエリア設定「飲食できる店舗・スペースの確保(美郷と、みんなの台所)」 「地産地消の実現・住民生活の基盤となる小売商業店舗の充実(美郷で選ぶ、揃う、地産地消)」「神楽などの伝統芸能やバリ文化といった美郷町の魅力を発信する拠点整備(美郷を知る、感じる)」。詳細設計、運営体制の検討、町商工会のネット募集等で建設に向け準備

(2) **町の強みを活かしたビジネス創出・事業者支援等** 「みさとと。ビジネスプラットフォーム」:町の強みを活かしたエグなビジネスを実現しようとする事業者募集・支援」「地域商工業等支援事業」:空き店舗等活用、異分野進出、開業・起業や特産品開発、事業継続等の町内事業者の意欲的な取組を幅広く支援」「『みさとと。Pay』」:利活用促進:支払手続のアプリ化で利便性の向上、マイナンバーカードと連携し健診受診者や介護予防教室参加者へのポイント付与し町民の健康づくりにも役立て」

(3) **農業振興**

① **ゼロカーボン農業モデル 【注力施策】** 日本有数のシタック「日本総合研究所」と連携し、ソーシエリツグを核に再生可能エネルギーを最大限活用した「儲かる農業」と「環境に配慮した農業」による「ゼロカーボン農業モデル」の取組み。「農地を守る」だけにとどまらず、「魅力ある農業」を確立し、担い手の呼び込み、育成、定着へ。ファームホ-ト美郷(受入機関)の組織体制・運営強化、ソーシエリツグ設備を備えた研修施設・フィールド整備、農業研究制度構築

② **農業者支援、集落営農組織化、耕作放棄地対策等** 「リース入事業者の支援(専門農業普及員によるきめ細やかな指導等)」「集落営農組織化・広域化(現在22集落、1集落の組織化支援)」「三瓶在来種おの収量増、販路拡大(作付面積約23ヘクタールと順調拡大)」

③ **畜産振興** 現行の支援策に加え、新たな支援策「地元産肥育牛導入支援事業」を実施し、畜産経営の継続支援

【組織新設、外部人材登用等】

- ・2つの課内組織新設 企画推進課「バリの町室」、産業振興課「ゼロカーボン農業モデル推進室」
- ・知見や力を活かす外部人材を積極的に登用、活用